



東大寺 212世別當 筒井寛秀 筆

【発行】

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会

<http://www.narakenshiren.gr.jp/>

【発行責任者】 前田 妙子

【メールアドレス】

honbu@narakenshiren.gr.jp

全国大会を終えて

会長 前田 妙子

謹んで新春のお祝いを申し上げます。平素よりご支援、ご協力いただき感謝申し上げます。

例年、広報誌「道」は1月に発行しておりますが今年は、「全国大会特別号」として「大会報告書」の発行に合わせて2月に出ささせていただくことにしました。今号では、ご参加、ご協力いただいた方々からの感想などを載せていますので、ご一読いただけましたら幸いです。

「住み慣れた地域で自分らしく生きる～重層的支援体制 誰一人取り残さない社会をめざして～」をテーマに掲げて、2年前より準備を進めてまいりました全国大会を、昨年9月に無事終えることができました。開会式典には、国、県、市町村、関係機関より100名を超えるご来賓の方々に、ご臨席賜り開催できましたこと、心より感謝申し上げます。また、全国より570名を超える参加者をお迎えして、今大会のテーマについて共に考える機会を得ましたことを嬉しく思います。あらためまして、開催にあたり、ご協力いただきましたすべての方々に感謝申し上げます。

特別報告では「能登半島地震の被災地の現状」を石川県肢連の松田会長よりご報告いただきました。また特別講演では、「コミュニケーションテクノロジーで人類の孤独を解消する」ことを目指して活動をされている奈良県出身で分身ロボットOriHimeの開発者の吉藤オリィ氏を、また記念講演では「奈良時代の医療福祉体制」について東大寺長老の狭川普文様をお迎えし、お二人のご講演から、連綿とつながる奈良時代からの障害者福祉の考え、そして現代、夢のある未来につながるコミュニケーションテクノロジーでの孤独解消支援などについて学ばせていただきました。

二日目の分科会①では、「住み慣れた地域で自分らしく生きる」というテーマでシンポジウム、分科会②では、能登半島地震を踏まえて「インクルーシブ防災～みんなで助かる防災を考えよう～」というテーマで、パネルディスカッションを開催いたしました。それぞれ関係者、有識者、親などが登壇して、有意義な意見交換ができたと思います。

二日間にわたり、盛りだくさんのプログラムとなりましたが、全国の仲間からは、自分たちの地元でも講演会を開きたい、参考資料が欲しいなどと、多数の問い合わせがあり、参加者の皆様からの反応に手ごたえを感じております。閉会式の大会決議文の中には「一人一人が住み慣れた地域で自分らしく生きられる社会、すなわち、すべての国民が障害の有無にかかわらず、お互いに人格と個性を尊重し合い、理解し合いながらともに生きることのできる社会を実現できること」と謳いました。願うだけでなく、少しずつでも実現できるよう、私たち親たちができること、声を上げること、これからも全国の仲間たちと力と心を合わせて父母の会の活動をしていきたいと思っております。

今年も、どうぞよろしく願いいたします。

第57回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会 第58回近畿肢体不自由児者福祉大会奈良大会

住み慣れた地域で自分らしく生きる～重層的支援体制 誰一人取り残さない社会をめざして～

第1日目 令和6年9月14日(土)

大会開会式典

特別報告 令和6年能登半島地震被災地の現状

特別講演 誰一人取り残さない社会の実現をめざして
～コミュニケーションテクノロジーで人類の孤独を解消する～

講師:株式会社オリイ研究所 所長吉藤 オリイ氏・分身ロボット OriHime

記念講演 奈良時代の医療福祉体制

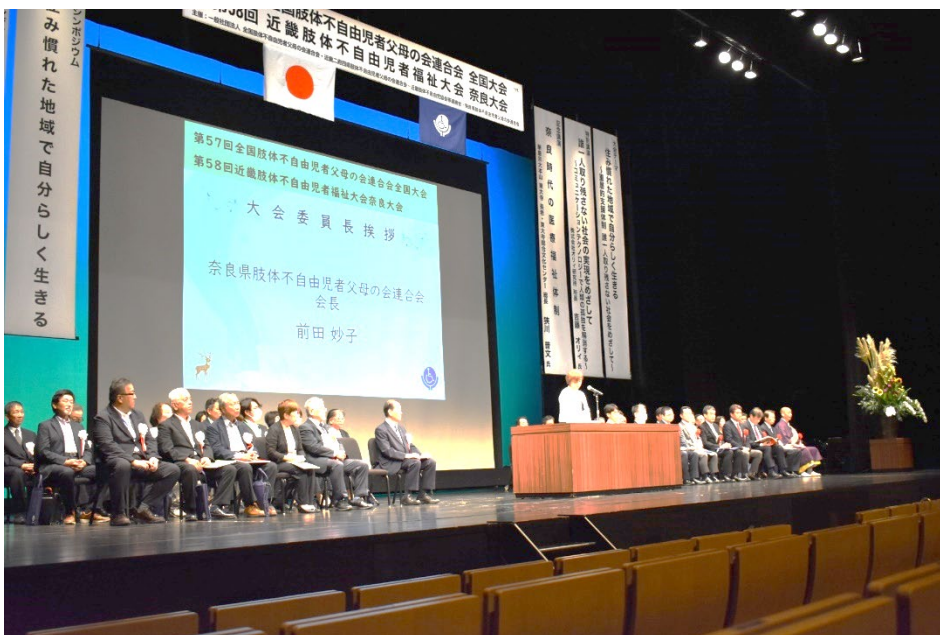
講師:東大寺 狭川普文長老

第2日目 令和6年9月15日(日)

第1分科会 テーマ:住み慣れた地域で自分らしく生きる

第2分科会 テーマ:インクルーシブ防災～みんなで助かる防災を考えよう～

大会閉会式典



福祉事業所より

サポートセンターはあと 廣瀬奈美

令和6年9月14日、15日の2日間、肢体不自由児者父母の会連合会の全国大会及び近畿大会が、なら100年会館にて開催され、はあとから菊山理事長、平川主任とともに参加いたしました。個人的な感想という形で報告させていただきます。
<1日目>



〇物販

藍染め T シャツ、ベンガラ染めの生地を用いた髪ゴム、しおり、スケジュール帳を販売した。講演前と休憩時間、講演後の大変限られた時間であったが、T シャツは12枚中9枚、スケジュール帳においては完売という嬉しい結果であった。

利用者のみなさん、職員の皆さんと共に創り上げた商品(作品)が、参加者の目に留まり、喜んで持って帰っていただけたことを大変嬉しく思う。今後もこのような機会があればよいと思った。

〇石川県肢体不自由児者父母の会連合会 会長
松田郁夫さんより、能登半島地震についての報告



凄惨な状況の写真がスライド上にたくさん映し出された。避難所の中には、土足と車椅子は立ち入れないという場所もあったという。まだまだ障害者理解が進んでいないことを実感したそうだ。

令和6年1月1日に痛ましい自然災害があったことを決して忘れてはならず、防災については、事業所内で考えていかなければならない最重要事項の一つだと思う。

〇株式会社オリイ研究所 所長 吉藤オリイさんの講演

オリイさんは、遠隔操作型ロボット「OriHime」を開発された方で、36歳と大変お若く、自分と同世代の方がこうやって活躍されていることを嬉しく思った。

オリイさんは奈良県出身で、王寺工業高校から推薦で早稲田大学に入学し、学生時代から様々な研究や発明に尽力してこられた。現在も活動拠点の東京にて、「OriHime」を活用したロボットカフェの運営、車椅子ユーザーが外出先の福祉トイレ、エレベーターの有無などをシェアできるアプリケーションサービスの運用など、多岐にわたって活躍されている。

1時間の講演の中でたくさんのことを発信してくださった。その中でも特に印象に残っているエピソードを書き記すこととする。

☆車椅子は、障害者の乗り物？

オリイさんは小学生の頃、車椅子ユーザーの友人がいて、その車椅子を羨ましく思っていた。

休み時間に車椅子を借りて廊下を疾走していたら、「なんてことをしているんだ」と先生にひどく怒られた。メガネをしている人にメガネを借りることは良い(怒られない)のに、なぜ車椅子は怒られるのか?どう違うのか?と、不思議に思ったそうだ。

いずれ誰もが、老いや病気などで歩けなくなることは必然であるから、「こんな車椅子があったらいいのに」「かっこいい車椅子に乗りたい」と誰もが考えてもよいのだ、とおっしゃる。

実際に、コタツに入ったまま移動のできる、「コタツ型車椅子」を発明するなど、障害を全くタブー視せず、ポジティブに研究をされる姿勢がとても素晴らしいと思った。

「コタツ型～」だけでなく、視線入力で移動ができる車椅子、車椅子のまま乗れる車椅子、視線入力で車椅子ユーザー自らが体勢変換のできる車椅子など、その人の能力を活かし、自立した活動に生きる発明も当然ながらされている。

☆不登校だった自身の経験から、「孤独を解消する」ことの重要性を謳う

もともと体が弱く、小学5年生～中学生まで不登校を経験したオリイさん。寝たきりの状態で天

井ばかりを見続けると、人の体はおかしくなっていくことを、身をもって経験した。

認知症やうつ病の発症因子の一つに「孤独」があることが最近の研究でもわかってきている。オリィさんの生涯のテーマが「コミュニケーションテクノロジーで人類の孤独を解消する」ことであり、今回の講演題目にもなっている。

☆「OriHime」の活用実践 ロボットカフェ



「役割」の重要性

スクリーンに、テレビ番組「バンキシャ」にて、枡アナウンサーがカフェに赴く様子が映し出された。席に着くと、その席担当のロボットがいて、接客してくれる。重要なのは、AI(人工知能)を搭載したロボットではなく、生身の人間が遠隔操作している「心」のあるロボットということだ。

障害や病気、様々な理由によって外出のできない人が、日本全国各地から接客を行うことができる。席担当だけでなく、食事の提供をするのもOriHime、つまり人間が操っているロボットだ。

家にいながら、社会と密に繋がることができるだけでなく、就労ができる。オリィさんは、孤独をなくすための手立ての一つに「役割」がある、とおっしゃった。

障害のある人が、社会や人との繋がりを実感し、自分の役割を主体的に果たしていく、これらのことは、テクノロジーの力を借りずとも今すぐ目指していける取り組みだと思う。

☆先天性ミオパチーの少女 寝たきり重症児?→将来有望!スーパー小学生

4歳の先天性ミオパチーの少女に、視線入力によって移動のできる車椅子を提供したところ、すぐに使い方を理解し、初めて母親を追いかける経験をする事ができた、という事例。

オリィさんとの出会いまでは、親御さんも、支援者たちも、少女がどれだけ「わかっている」のかが全くわからない状態だった。

視線入力だけでなく、指を吊ってあげると、文字が書けることもわかった。そしてとても好奇心旺盛、アイディアマンで、小学3年生の時には、プラネタリウムのイベントを企画・主催して、黒字の売り上げを果たしたそうだ。

4歳までは、「重度心身障害児」と思われていたが、今や定型発達児にも負けず劣らずの力を発揮しているスーパー小学生だ。

家庭環境ももちろんだが、どんな支援者と出会うか、どんな支援を受けるかによって、その子の道の拓け方が変わってくることをとても痛感した。支援者が、その人の可能性を潰していないか?今一度、考えるきっかけとなった。

<2日目>

2つの分科会が準備され、私たちはテーマ「住み慣れた地域で自分らしく生きる」の分科会に参加した。コーディネーターに、バリアフリー研究所所長の八木三郎さん。そして、大会委員長である前田妙子さんが、華奈子さんの親としての立場でシンポジストを務められた。前田さん以外にも、3名の有識者の方が登壇された。(別紙参照)

4名のシンポジストの発表の中で共通していたことは、「本人が中心となって、どう生きていきたいかを考える」ということだ。

西宮市で「青葉園」の創設、運営に尽力された清水明彦さんの話の中で、「青葉園は、40年以上も前から、共生社会の実現を目指しているんです」とあった。また、「障害のある人が、その人の暮らす地域の人と交流する、ということだけでなく、その人自身が1人の地域生活者である」という考え方に大変感銘を受けた。

私には、取り組みの中で、地域の人と交流する機会をたくさん作っていききたいという気持ちがある。その気持ちはきっと間違っていないが、どこか、「地域に『入っていく』」という感覚であったことに気づいた。一人一人が地域生活者であ



り、当たり前地域で暮らし、外出し、生きていくんだという考え方に改めようと思った。

それに関連し、前田さんのお話の中で、「本人が『お出かけをしたい』というニーズに沿う形で、移動支援をする、それが『本人主体』ということだと思ふ」とあった。支援者の立場としてその言葉を受け、移動支援の際、お出かけ先を支援者の都合で決めてしまっていないか、本人の希望は聞いているか、本人と相談しているか…と、振り返るととても良い機会になった。

また、京都市身体障害児者父母の会連合会 事務局長の久門誠さんの、「複数の職員が、複数で関わることの重要性」のお話大変共感した。「職員一人ひとり、それぞれの適性や特性があり、その凸凹を埋め合うのだ」と。

加えて、2017年京都大会での上野千鶴子さんの講演の中でのお言葉「大きな大黒柱がなくても、細い筋交いがいっぱいあればいい」を紹介された。

前田さんも「(華奈子さんと)入浴介助に来るヘルパーさんとの会話を聞いていると、その人に合わせて、お話しする内容を変えたり、前の会話を思い出してお話しして、そんなことできるようになったんだと成長を感じている」とお話しされた。

様々な職員が、様々な関わり方をして、様々な視点でその人を捉えようとする事の大切さを改めて知り、また、得手不得手をカバーし合えるような職場環境が、職員にとっても、利用者様にとっても肝要であると感じた。

この分科会を通じて、本人が主体となり地域で当たり前暮らししていけるような支援を、多角的な視点を持ちながら、チームで行っていきけるよう、今後も頑張っていきたいと思った。

○まとめ

2日間を通して本当に様々なことを学ぶことができました。

1日目は、最新のテクノロジーの力で障害のある人の社会参加が広がっていることを知り、2日



目は、本人主体の支援のあり方を有識者の方々から教えていただきました。

どの講演も、これからの支援に活かされるような内容であり、とても勉強になりました。「勉強になった」で終わらずに、今回の経験を活かして、はあとでの様々な取り組みや課題解決に尽力していきたいです。

また、大会運営に奔走する前田さんをはじめとするご家族の方々を拝見し、ご自身のお子さんだけでなく、地域で暮らす障害のある人とそのご家族のために身を粉にして活動されている姿に、感動しました。私たち支援者は、ご家族の想いに共感し、共に歩いていくことが必要不可欠だと感じました。

長い拙い文章でしたが、最後まで読んでいただきありがとうございました。



学生ボランティアより



天理大学 4回生

人間学部 人間関係学科 社会福祉専攻

新 太陽

先日の全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会・近畿肢体不自由児者福祉大会奈良大会と連日の大会運営、お疲れ様でした。またこれらの大会の運営に携わせていただき、貴重な機会をいただき誠にありがとうございます。

連日の大会に全国各地から当事者の方や関係者の方がお越しになられる様子を拝見し、本大会がそうした方々にとって非常に重要な存在であると

という印象を抱きました。

天理大学においては社会福祉士の養成課程として障害者福祉について学ぶところですが、まだまだ地域生活での困難や社会における偏見などが多くあると感じていました。しかし、今回の吉藤氏の講演を通して、障害があることの普遍性や現代のテクノロジーを駆使して障害があっても社会において参加・活動ができるということを学び、問題意識だけではなく障害があっても社会と繋がっていただける、貢献できるというような希望を持つことができました。

誰もが予期せぬ事故や病気によって何らかの機能不全に陥る可能性は十分あり、老化による能力の低下は、人生100年時代と言われるこの時代において全ての人に生じます。そうした環境にいることや、例え障害があっても社会で活躍できる方法があることを多くの人を知り、障害があることが特別ではないという1つの常識ができて欲しいと思います。

私は社会福祉士、精神保健福祉士を目指す1人の学生で、社会からすれば小さな存在ですが、そうした意識を1人でも多くの人々が持つよう努力をしたいと思います。今回はこのような貴重な学びを得る機会をいただき誠にありがとうございます。



本人より

奈良市観光協会の公式
マスコットキャラクター
しかまるくんでーす!

西和地域 池田真一

全国肢体不自由児者父母の会の全国大会では…奈良の100年会館のホールの中で、障害に関わりのある方の色々な話を聞きました。

僕も初めて肢体不自由児者父母の会の全国大会に行ったのですが…本当、規模がデカくて会場に行ったらマスコットの着ぐるみとボランティアの学生さんが出迎えてくれて、嬉しくなって思わず写真を撮っちゃいました。

会場では僕の通っている事業所が、何処かで何かやかんやと販売をしていたり…父母の会から僕が出版した絵本をちょこっと売っていたので、なんか…恥ずかしくてバザー会場には顔を出さずに会場に入りました。

会場に入ると…懐かしい人や懐かしい先生方いっぱい逢えたので、めちゃくちゃ嬉しかったです。

そして、講演では色々な方々のお話を聴きました。その全部は…僕に記憶力があまり無く覚えていませんが、印象に残った物だけをかいつまんで書きますと…まず、障害者のために色々な物の改造をして世の中に貢献している方のお話が一番面白かったです。

うわあ～、スゲーと感心したり、なんじゃこりゃ～と爆笑したり…色々胸を躍らせ、胸をワクワクしながら聴いていました。

そして、次に記憶に残っているのは…重い障害のある方の為に…グループホームや色々な施設を作った物語でした。障害を持たれている方の為に親身になってお世話をされている方の姿だけでなく、懸命にそこで精一杯自分の居場所を見つけて生きられておられる障害者の方の姿にも胸を打たれるものがありました。

そして、改めて僕達は色々な人達の支えがあり生かされているんだなあと言う事を思い知らされ、人との繋がりは大切にしないといけないなあ

と思いました。僕も…一応郡山で親元を離れ一人暮らしをしている身なので…なんか、人ごととは思えず自分のことのように聴いていました。

本当に、色々勉強になり励みになる全国大会だったので…また、行われる時は参加したいなあと思いました。

そして、いつの日にか僕も…形は違うかも知れないけれども何か人に貢献したり、自分の好きな物語をもっと書いて…もっと良い物を作ったりして人から認められたいなあと思いました。

絵本紹介

孤独などぶネズミはライオンと旅を続ける中で友情を育むが……。「生」を考える絵本



2024年6月発行
 文芸社『チュチュと太陽』
 (文:池田真一/絵:せきぐちみほ) 定価 1430 円(税込み)
 池田真一さんは、当会会員の息子さんです。
 ←全国大会物販コーナーで、販売いたしました。ご本人の意向で書籍の売り上げは、すべて能登半島地震に寄付されます。

事もなく、スムーズに進んでいったのは控室であるカフェやホールの座席へのご案内を県の職員の方が担って下さり、何度も行き来して下さったからだと思います。本当に助かりました。

私自身はカフェで来賓の方にお飲み物の注文を伺い、お運びする役目を途中からさせていただきました。たくさんの方が熱量高くお話されている中、時間を気にしつつ動くことが出来ました。タイムスケジュールが配布されていたので滞りなく進んでいきました。来賓の方の名札がなかったり、夜の懇親会でもお名前が見当たらず焦ることもありましたが、結果的にはすべてうまくいきました。

様々な準備があつて、たくさんの方の協力があつて奈良県で初めての全国大会は成功したのだと感じます。役員の皆様、実行委員の皆様、参加して下さった皆さまありがとうございました。



全国大会実行委員として参加して

生駒市 実行委員 漸井みゆき

奈良で初めての全国大会を無事終えることができ、ご支援いただいた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

私は来賓担当の実行委員として携わらせていただきました。当日は有難いことに100名を超えるご来賓の方々がお越し下さることになりました。粗相のないようにとたいへん緊張しましたが、奈良県福祉医療部の皆様、全肢連事務局には準備からお世話になり、当日も受付から席のご案内までお手伝い下さったお陰で滞りなく着席していただくことができました。

また二日間の日程を終え参加者の方々も笑顔でお帰りになるのをお見送りできたことも嬉しく思いました。私も今まで全国大会には何度も参加させていただいて、たくさんの方の懐かしい思い出があります。今回おいで下さった方にも奈良が良い思い出になれば幸いです。

会員より



磯城郡 坂本美紀(天井純姉)

初めての全国大会に当日スタッフとして関わらせていただきました。

たくさんの方の事前準備を役員さんや実行委員さんが行ってくさっていました。

迎えた前日には、割り当てられた大ホールの準備

や来賓受付の流れや名前確認をしました。そして当日。来賓受付の前に長い列ができる



ご来賓と全国から参加される皆様をお迎えするにあたり、滞りなく二日間を有意義に過ごしていただけるようにと本部を中心に会員が一丸となってそれぞれにできることを協力し貴重な経験になりました。



奈良市 今井篤子

全国大会、本当にお疲れさまでした！

大会本部運営の皆様には、不慣れな私にも温かくご指導いただき、お弁当配布と会場設定を少しお手伝いさせていただきました。その中で、さまざまな方々とお会いし、お話をお聞きでき、貴重な思い出となりました。

分科会②「インクルーシブ防災～みんなで助かる防災を考えよう～」に参加しました。

お話を聞き、いつ起きるか予測できない地震の怖さに気づかされました。

避難所生活は、障がいのある娘を連れては無理だと漠然と思っていましたが、漠然ではその時に対処できないと改めて感じさせられました。熊本・能登地震を体験された方から、「一人ではできません。災害とはそういうものです。」という言葉はとても重かったです。災害にあったら、やはり助けを求めてしまう。では、誰に？どこに？介護を代わってもらえる人はいる？と、娘にあった避難計画バージョンを数種類考え、親以外の持続可能な介護者計画が大切だと思いました。

実際に被災された実情は強く心に響きました。能登半島地震の際に福祉避難所7カ所とも電気が

来ていない、職員も被災しているなどで開設できなかったそうです。また、熊本地震の際に大学が自主的に避難所を開設し、多くの高齢者・障がい者の方を受け入れたという話を聞き、大変感動しました。

たまたま半年前に「一般の大学で高齢者・障がい者の福祉避難所にできないか？」との声から炊き出し訓練を実施していました。受け入れ場所の提案では、体育館のマットが使える？介護実習室のポータブルトイレが使える？学食の食器が使える？など、学生たちは自分たちで考え、避難所シミュレーションをしたそうです。その半年後に熊本地震が起きてしまいました。熊本支援団体と吉村先生をはじめとする教員・大学職員・学生の連携で、大学内で福祉避難所を開設しました。これが実現できたのは、たまたま重なった偶然だと言われてました。これをどうすれば必然的にできるのかが、いくつものシミュレーションを考えることが重要であると教えていただきました。

また、避難者は約700名で、その内高齢者・障がい者約60名でした。60名の介護に、熊本の支援団体が会員外も含む全員を支援してくれたため運営できたそうです。これも偶然が重なった幸運な結果と言われていました。何度も偶然ではなく必然にする方法を考えなければとお話くださったのは、身をもった体験からであり、重く受け止めました。

今まで以上に災害にはさまざまな課題があることを理解し、漠然とした考えよりも具体的に考える必要性のある防災対策が重要であると改めて感じました。今後は、自分たちの家族だけでは災害時の対応は無理だと認識し、地域団体や支援団体に加え、ご近所の方や知り合い、親戚に介助の応援支援を頼みたい旨を伝えていこうと思っています。



奈良市 実行委員 深野夕佳

私は明日香養護学校、奈良養護学校の教職員(以下、先生)と一緒にケアルームを担当させていただきました。前日は、配置図を基にパーテーションやイス、テーブルなどの準備を行いました。プライバシーが守られるスペースとともに、くつろいだり、情報交換したりできるオープンスペースがあって、使いやすく居心地の良い雰囲気になりたいと思っていました。その一方で、基礎疾患があり、医療ケアが必要な方のご利用もあるため、緊急時にはどのような対応を取ったらよいのか、救急車の要請をした場合は搬送時にどのような経路を通るのか、などの確認も行いました。



当日、養護学校の先生方は初めてお会いする方がほとんどでしたが、一通りの説明が終わると、部屋や物品の使い方や利用者の対応の仕方についてご意見を下さり、とても心強く安心しました。ケアルームは、障害児者とその保護者や介助者が一緒に利用されました。全国からお越して大変お疲れだと思いますが、皆さん気持ちよく、きれいにご使用していただきました。先生方はとても親切にご利用者に対応してくださいました。介助のお手伝いをされたり、使用されている福祉用具や医療器具をきっかけに気さくにお話されたりしていて、とても和やかな雰囲気でした。私自身も初めてお会いする方と育児やケアについて情報交換したり、今まで上手に活用できなくて困っていた用具の使用方法について教えていただいたりして、とても素敵な出会いがありました。

ご利用者が少ない時間には、講演にも参加させていただき、貴重なお話を伺うことができました。

私は息子が3歳の時から父母の会でお世話になっています。同年代では解決しにくい将来についての悩みや今までの障害者福祉、医療について教えていただくことがたくさんありました。その息子も今年で16歳になりました。今回、全国大会の開催にあたり、日ごろからお世話になっている福祉事業所や訪問看護リハビリステーションの皆さんからも快く応援していただきました。ほんの少しですが、私もこのような大きな大会に関わら

せていただき、改めて息子や私たち家族がたくさんの方に支えられていることを感じ、これからも息子の可能性を信じて一緒に楽しく生きていたいと思いました。そういう元気の出る素晴らしい機会になったことをとても感謝しています。ありがとうございました。



全国大会を終えて

副会長 宿利三知恵

前田会長が全国大会を引き受けてきたと聞いた時は、開催するからには良い大会にしようと腹を据え鼓舞してきました。「時間はある!大丈夫!」と。2年前から大会の準備を始め、テーマ、会場等々、ゼロの状態からのスタートでしたが、考えても悩んでも仕方ない、とにかく動くことだと情報収集を始めました。京都市の父母の会事務局の久門さんから、いろいろと教えていただきました。

たまたま見たTVに吉藤オリィ氏がゲスト主演、私の中で記憶が甦りました。電動車椅子を開発し渡米した高校生だったと繋がった瞬間でした。すかさず、全国大会で講演してもらわないかと提案しました。生きづらさを

持つ人、その家族、障害あるなしに関わらず、多様性を求めるこの時代に講演を聴いて何か感じてもらいたかったのです。

1年前の岡山大会、「せんとくん」という頼もしい助っ人を連れて参加し、奈良の会場を想像しながら、だんだん大会の構成ができてきました。ところが能登半島地震を踏まえ「防災」について分科会をするべきではないかとアドバイスを受けました。早速福祉防災コミュニティ協会の湯井さんに連絡し、2月初旬には奈良のホテルでチェックアウトされた湯井さんと面会し、テーマ・パネリストの人選から相談させていただきました。

大会がいよいよ間近になり、文書の作成に追われ、ある日は家のパソコンの前で睡魔に負けて爆睡、ある日はパソコンに向かいいつの間にか夜が明けたなど、全国大会までどんな生活をしていたか覚えていません。私の悪い癖で、やらねばならないことを後回しにして、もっともっとできたのではないのかと自責の念にかられました。しかし前田会長の迷いなく突き進んでいく精神力に只々敬服するばかりです。

奈良県肢連は1970年に発足し、長きにわたって私たちの諸先輩方が南都諸大寺チャリティー墨書展をはじめ数々の事業を堅実にやり、多くの方々にご支援いただきました。そしてそのご縁やおつきあいを大切に、いかなる関係の方々からも信頼され、土台を築いてくださったからこそ、当会にとって全国大会はまさに集大成でした。大会の準備で困ったときも誰かが手を差し伸べてくださる、人とのつながりにどれほど助けられたことでしょうか。

最後に多くの方にご支援ご協力賜りましたこと心より感謝申し上げます。課題は山積していますが、全国大会を成し遂げたことを心に刻み、障害のある子どもたちの笑顔を糧に障害福祉の向上、そして私たち子どもたちが自分らしく生きていける社会をめざして努めてまいります。これからもよろしくご指導お願いいたします。



本部役員 山本 真由美
初の奈良県での開催となり、令和5年の岡山大会に参加し、全国大会の様子や全体の流れを把握し参考にしました。

事前に入念な準備を、実行委員と本部役員で行っていましたが、実際に始まると想定外の小さなアクシデントが起こったものの大きなトラブルもなく大会を無事に終える事ができました。

後日、大会に参加してくださった方から「とても奈良らしく、実り多い素晴らしい大会でしたね。」と言っていたき安堵いたしました。

担当は、情報交換会でした。ホテル日航奈良 飛天の間を会場に250名程の参加者でした。

前田会長の「遠方から来てくださる皆さまに気持ちよく情報交換会を楽しんでいただけるように。」との思いを出来るだけ実現できるように準備を進めました。でも、目の前のことでいっぱいになっていて考えが及ばず、配慮が不足しがちになっていた私でした。直前の実行委員や当日手伝いのスタッフからの提案とアドバイスで、よりスムーズな受付と、お席への案内をすることが出来ました。

情報交換会では、開会の挨拶 乾杯に続き会食がスタートしました。ホテル日航奈良の奈良の地元食材をふんだんに盛り込んだメニューに舌鼓を打ち、同じテーブルのお客様は口々に「とても美味しく満足です。」と喜んでくださっていました。今回、兵庫県肢連と壺坂酒造様より日本酒「父母の会」をご提供いただき、お料理に花を添えていただきました。お食事が進むにつれ他のテーブルのお客様とも交流を深められている様子でした。

また、食事の終盤には たんぽぽの家による記念パフォーマンス「ミニわたぼうしコンサート」で会場は、温かく優しい楽器の音色と歌声に包まれました。



こうして、情報交換会は終始和やかな雰囲気の中、大会一日目に幕を下ろしました。

役員として準備から携わってきましたが、なかなか役割を果たせていない状況に、本当にこの様な大きな大会の一部を担うことが出来るのだろうか不安にもなりました。終えた今は、多くの人々の思いと力に支えられ全国大会を成し遂げる事が出来たのだと強く感じています。そして、全国大会開催を経験する機会に恵まれ嬉しく思っております。

最後になりましたが、ご協力いただきました皆様へ心より感謝申し上げます。

本部役員 河野正子

私は大会までの振り返りを記したいと思います。何をすべきなのか何も知らなかった私は、制度の勉強会で詳しく話を下さっていた前田会長と息子が小学生の時にサークルを主催して下さいと私の気持ちに共感して下さいと宿利副会長の下、微力ながらもお手伝いできることがあればと本部役員を引き受けさせて頂いた日から、全国大会の準備とチャリティー墨書展と数ある事業をもやっけてのけようとする会長、副会長に驚き尊敬しつつもその後ろをがむしゃらに追いかけていた二年間でした。

愛知大会はコロナ禍で残念ながら私はオンライン参加でしたが、視聴しながら奈良大会でも ICT を特化した内容の講演や分科会が出来たら良いな、そういえば奈良県出身の吉藤オリィ氏はピッタリじゃないかと胸が高鳴りました。役員会で満場一致後は、会長が水面下でアポ取り、交渉を進めて下さいました。私は会員にカミングアウトするまで黙っているのがとても心苦しかったのを今も覚えています。奈良県肢連の本部役員は少数だからこそバイタリティー溢れる奈良大会に向けてのエピソードが沢山ありますが、やはり一番は、岡山大会に奈良県代表としてせんとくんが一緒に参加してくれたことだと思います。次期開催地の挨拶は何が良いか、9月の墨書展はどうするか等の話をしている時に、せんとくんが「奈良県に来てねー」と前田会長の横でアピールすればインパクトが出て全国から沢山の会員さんが来てくれるのでは・・・と言った数日後には、奈良県のせんとくん担当課へ出演依頼と全肢連の OK をもぎ取っていました。

また、会場のなら100年会館のありとあらゆる場所をメジャーで測り、カメラに納め、駅と情報交換会会場のホテルまでの動線の確認のため何度も足を運びました。車椅子ユーザーの観覧場所や休憩場所をどうするか相手の立場に立っての下見でもありました。いよいよ大会要綱の内容も大詰めかというさなかに能登半島地震が起きました。年明けに役員会で事務局に行くこと「防災関連を奈良大会に盛り込む」とのことでしたが、悲壮感漂うどころか、では早速とばかりに宿利副会長は以前から奈良県肢連と関わって下さっていた福祉防災コミュニティ協会の湯井氏に連絡を取り第2分科会と決まりました。講師陣は奈良県外の方々でしたが、コロナ禍でオンラインが瞬く間に普及したおかげで、会議は自宅で安心して行えたのも良かったと思います。

情報交換会ではオリィ氏の講演後ということもあり、OriHime でデモンストレーションが出来ないかと役員の方山本さんが奈良県内で OriHime でカフェの接客をしている事業所と交渉して下さっていたのですが、大会直

前に事業所と連絡が取れなくなり断念することになり、とても残念でした。情報交換会での席次を考えるのはとても難しかったです。テトリスのようにテーブルと椅子の数をただ埋め合わせれば良いというわけにいかず、何度も何度も訂正が入りました。その都度、修正してはメールを送るのですが時計の針は真夜中を指しているのに、何なら明け方の日もありましたが会長も副会長も起きているのです。私は席次は数を合わせるだけではなく、いろいろな配慮が必要だと勉強させて頂きました。

そして、広告です。会員に広告のお願いをしてから、沢山の会社や事業所から広告の申し込みが事務局へ入ってきました。各会員が日々の信頼関係を築かれてきたからだなと感謝でいっぱいでした。来賓の名前をほとんど頭の中に入っている会長と副会長の横で、私は名前が記されている紙をめくっていくのに必死でした。

そして、8月に入ると大会への申し込みが増える度に安堵の表情が溢れる事務局内でした。大会が近づくにつれ、会場設営や受付等の委員会も立ち上がっていき、それぞれの担当の時間配分や流れを細かく決めていき、大会前日の大会要綱冊子などの袋詰めや設営等は瞬く間に終わり、全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会を迎えました。前田会長の下、会員が一致団結した奈良大会は大盛況で、私はしばらくの間は奈良大会ロスになっていました。

最後になりますが、大会の設営等にご協力下さった会員の皆様、養護学校の先生方、学生ボランティアの皆様、また、暑い中、物販コーナーにご協力下さった事業所の皆様のご尽力の賜物と、感謝申し上げます。ありがとうございました。


自分らしく輝いて

肢体不自由児者父母の会全国大会
未来の課題共有、提言

第57回全国肢体不自由児者父母の会全国大会(清水 地域で自分らしく生きる) 誠一会社・第58回近畿肢体不自由児者福祉大会奈良大会(前田妙子会長)が、15日の両日、奈良市三条宮町(なら100年会館)で開かれ、講演会や分科会が実施された。

開会式では、大会委員長の前田会長が「障害がある人、誰かが自分らしく輝いて」

奈良新聞 本紙とデジタル版に全国大会の記事が載りました




講演会や分科会が実施された大会=14日、奈良市三条宮町のなら100年会館

「オリィ」

この日は分科会「オリィ」で知られるオリィ研究所(奈良市)の吉藤オリィ氏が、東大長官の狭川善文氏が講演した。

が未来を切り開いていけるように活動していきたい」とあいさつ。大会名譽会長の山下真知事や仲田元庸、寺の橋村公英、別当も出席した。





広告・寄付・協賛・支援者ご芳名一覧

奈良県	株式会社タミヤ製作所
奈良市	特定非営利活動法人 介護支援事業所たんぽぽ
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社	有限会社ツザキ・ケア・ブレイス
アステラス製薬株式会社	宝山寺福祉事業団理事長 辻村泰範
株式会社協和	筒井英子
ぜんち共済株式会社	壺坂酒造株式会社
一般社団法人 あおば会	訪問看護ステーション つみき
あかるい未来準備室	社会福祉法人 天寿会
社会福祉法人 あけび	天理大学人文学部社会福祉学科
社会福祉法人朱鳥会障害者支援施設雅乃郷	社会福祉法人東大寺福祉事業団
あさひ Ya!カフェ	特定非営利活動法人 芽ばえの会 どっとゆう
全国重症心身障害児(者)を守る会会長 安部井聖子	社会福祉法人鳳雛会 障がい者支援施設どんぐり
天井 浩	特定非営利活動法人 団栗会
社会福祉法人 いこま福祉会	どんぐりの会
株式会社イカリトンボ	永富美保
石田レーベル株式会社	社会福祉法人 奈良県共同募金会
梅本石油株式会社	一般社団法人 奈良県ビジターズビューロー
一般社団法人 おたがいさま	奈良県立明日香養護学校
掛水敏充	奈良県立奈良養護学校
社会福祉法人嘉那の会多機能型事業所はるかぜ	奈良県障害者福祉連合協議会
介護ステーションがじゅまる	一般社団法人奈良県身体障がい者団体連合会
上武建設株式会社	奈良交通株式会社
川西発達支援の会	一般社団法人奈良県手をつなぐ育成会
川西町 LD 研究会	社会福祉法人 ならやま会
川村義肢 株式会社	有限会社南都観光社
共同精版印刷株式会社	株式会社南都銀行
認定特定非営利活動法人 きららの木	株式会社日経サービス
社会福祉法人 功有会	特定非営利活動法人 虹の家
五條メディカル株式会社	株式会社ノダフィルズ
小寺慧	特定非営利活動法人 サポートセンターはあと
眞宗寺 眞田哲雄	ぱくりハビリ訪問看護ステーション
澤田造園土木	東大寺別當 橋村公英
三和住宅株式会社	花房康好

社会福祉法人バルツァ事業会
特定非営利活動法人ひかりの森
社会福祉法人宝山寺福祉事業団
株式会社フォレストホーム
株式会社堀内八郎兵衛
株式会社ホワイト
前川株式会社
一般社団法人医療・環境・再生・研究機構 MERRO
松本倫子
株式会社まつもと 介護福祉事業部 よろこび
社会福祉法人 総合施設美吉野園
株式会社ミライロ
みんなの広場らんまん
名鉄観光サービス 株式会社
株式会社元廣
特定非営利活動法人生活支援センターもちつもたれつ
株式会社モンベル
大和大学白鳳短期大学部教授 中浦守浩
大和大学白鳳短期大学部総合人間学科
社会福祉法人恵風会 特定養護老人ホームやまびこ
サポートセンター ゆいまる
吉川春陽堂
株式会社楽を創る 障がい福祉サービス えんぱしい
株式会社和音コーポレーション
特定非営利活動法人 わかくさもえぎ
和歌山県障害児者父母の会連合会
社会福祉法人 わたぼうしの会
株式会社 DIA
一般社団法人 eight
HAMORI-BE
株式会社 IWC
一般社団法人 komorebi わくわくホーム
Kiyو リハビリ PROS
株式会社 T&K Office つきひゆい
株式会社 THYME 訪問看護ステーションたいむ
匿名 2企業 2団体 6個人
(順不同 敬称略)



坂本明日香さん 20歳おめでとう

明日香は予定より2ヶ月早く生まれてまい、体重860gのとても小さな赤ちゃんでした。

そんな明日香もたくさんの人に支えられて成長し20歳を迎えることができました。

これから先やりたいことは何かを尋ねると「一人暮らしをすること」だそうです。これからは自分の可能性を追求して行ってほしいです。

ずっと応援しています。

(母 坂本布起子)



お知らせ

会員 磯城郡 石田力朗様より
100万円ご寄付をいただきました。
厚くお礼申し上げます。



お知らせ



全国大会で参加者の皆様に進呈しました当会オリジナル車いすせんたくんファイルと版画家小寺慧さんのデザインの当会オリジナル付箋(花喰い鳥・鹿)2種類を販売しております。

お問い合わせは事務局まで 0744-29-0140

今後の予定

- *第56回奈良県肢体不自由児者
父母の会連合会総会
6月3日(火)
奈良県社会福祉総合センター
- *第59回近畿肢体不自由児者
福祉大会京都大会
7月12日(土)
ホテルグランヴィア京都
- *第18回南都諸大寺チャリティー墨書展
9月13日(土)~14日(日)
東大寺文化センター
- *第58回全国大会北海道大会
(札幌市)
9月27日(土)~28日(日)

編集後記

全国大会報告書と同時発行になり、56号は全国大会特集号とさせていただきます。事業所・ボランティア・本人・実行委員・会員の皆様ご寄稿ありがとうございました。全国大会に対するそれぞれの思いがいっぱい詰まっています。ご感想お寄せください。令和6年度の活動報告や連載の“和気あいあい”“数珠つなぎ”など次回57号に載せます。どうぞお楽しみに!